

日中同形語「感動」「感动」の意味用法について

——連体修飾語として用いる「感動+」と“感動的”を中心に——

李 喆

1. はじめに

日本語と中国語とで語構造が同一の漢語は「日中同形語」と呼ばれている。日本と中国はいずれも漢字圏に属し、日中同形語が数多く存在している。例えば、「歴史」、「経済」、「新聞」などが挙げられる。漢字は表意文字であるため、これらの同形語は、日中で発音が異なっても、意味が通じる場合が多い。しかしながら、両者の意味は完全に一致しているわけではなく、誤解を招くこともある。このような同形語の一つに、「感動」「感动」という語がある。これらは日本語と中国語でほぼ同じ意味を指しているが、日本語の用法には中国語には見られない用法もある。例えば、『高校生が感動した微分・積分の授業』¹のような用法である。授業に対して、「感動」を用いる用法は中国人日本語学習者にとっては非常に理解し難いと考えられる。

以上のことを踏まえて、本研究では日中同形語「感動」「感动」に焦点を当て、「①コーパスを用いた用例分析」「②中国人と日本人を被験者とする質問紙調査の結果」に基づき、日本語の「感動」と中国語の“感动”の意味用法の相違を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

ここでは、日中同形語に関する研究のうち、本研究と特に関わりの深い、顧令義（2014）、張瑜璇（2015）、庞佳（2015）の研究を取り上げる。

顧は、漢語の意味について、語彙の意味、文法の意味、色彩の意味の三つに分類した上で、語彙の意味から日中同形語の意味関係を等価の関係、包含関係、共通関係、隣接の関係の四つに分類している。次の表1は顧の挙げるこの四つの関係の特徴と用例を稿者がまとめたものである。

顧の分類によると、「感動」と“感动”は「心が動く」という部分で重なり合う関係を持ち、「共通関係」に属している。しかし、顧は両者の共通点、相違点に関する具体的な分析は行っていない。

【表1】 顧による日中同形語の分類

関係の種類	特 徴	例
等価の関係	意味がほぼ一致する関係を持つ語を指す	「空気」と“空气”
包含関係	一方が他方を包摂する関係を言う	「番号」と“番号”
共通関係	両方の語がそれぞれの一部分において重なり合う関係を言う	「発展」と“发展”
隣接的關係	意味領域は重ならないが、両者が非常に近い関係にある場合を指す	「手紙」と“手紙”

次に、本研究で取り上げる「感動」「感动」に焦点を絞った先行研究を紹介する。

張は、辞書の意味記述に基づき、「感動」と“感动”の用法を比較分析している²。張は「感動」と“感动”に共通する特徴として両者が動詞としても名詞としても使用可能な点を挙げている。一方、相違点としては、“感动”が「感動」より感情的な程度が深いこと、「感動」は“感动”の意味以外に、「敬服」の意味もあること³を挙げている。しかしながら、張はこのような分析結果を裏付けるものとして辞書の意味記述しか用いておらず、根拠が不十分である。

張が主に語彙的意味の側面から「感動」と“感动”を分析したのに対し、龐は、『中日対訳コーパス (2003)』を利用して文法的意味の視点から「感動」「感动」を分析している。龐によれば、いずれも品詞は動詞と名詞であるが、“感动”は述語としての例文が最も多いのに対し、「感動」は目的語としての例文が最も多い。また、動詞として使われる「感動」は自動詞であり、「感動される」という受け身の用法はないが、“感动”は自・他動詞であり、受け身表現がよく使われていることを究明した。しかし、「感動」と“感动”の語彙的意味の相違については、詳しく言及していない。

以上、本研究と関わりの深い先行研究について見てきた。このうち張、龐は、「感動」と“感动”を比較しているものの、いずれも両者の語彙的意味の相違について十分に説明しているとは見なしがたい。したがって、本稿では、コーパスからの用例、並びに日本人と中国人に対して行った「感動」「感动」の使用に関する質問紙調査の結果に基づき、両者の意味の相違を明らかにし、中国人日本語学習者が「感動」の使用方法を理解する上で必要な情報を提示する。

3. 研究方法

3.1. 用例分析の方法

本研究では「感動」と“感动”の用例を分析するにあたり、まず web 上で公開されている言語コーパスを使用し、用例を採取した。使用したコーパスは以下の二つである。

- ① 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下 BCCWJ と称する)
- ② 『現代中国語コーパス』(以下 CCL と称する)

①は国立国語研究所が2011年に公開したコーパスである。収録語数は、約1億語であり、この中には、書籍、雑誌、新聞、白書、教科書、広報紙、Webの掲示板、ブログなど多様な日本語が含まれている。一方、②は北京大学中国語言語研究センターが開発したコーパスである。収録された現代中国語語数は、約3億語である。

BCCWJ から用例を採取する際には、まず中国語“感動的”と対応する日本語の検索語として「感動の」「感動した」「感動する」「感動させ+」「感動させる」「感動させた」「感動させられる」「感動させられた」「感動させてくれる」「感動させてくれた」「感動させている」を用いた。次に、これらが連体修飾語として用いられているものを抽出した。続いて、被修飾名詞に固有名詞が用いられているものを排除した。最後に、「感動した人」のように被修飾名詞が修飾語の意味上の主格にあたるものを排除した。一方、CCL から用例を採取する際には、検索語として“感動的”を用いた。その中で“感動的是”などの無効用例ならびに被修飾名詞に固有名詞が用いられているものを排除した。

このようにして、最終的に収集された用例数は以下の通りである。

● 「感動の+ N」	201例
● 「感動した+ N」	110例
● 「感動する+ N」	79例
● 「感動させ++ N」	24例
● 日本語「感動+」合計	414例
● 中国語“感動的”合計	425例

本研究は、以上の用例に現れる被修飾名詞について、『分類語彙表』を参考の上で、意味分類を行った。

3.2. 質問紙調査の方法

次に、先のコーパス調査の結果を踏まえた上で、日中で解釈の相違が生じそうな用例を作成し、日本語母語話者、中国語母語話者に対して、どのような解釈が自然かを問う質問紙調査を行った。被調査者の数ならびに調査実施期間は以下の通りである。

被調査者

- ① 大学生の日本語母語話者30名
- ② 日本語能力試験 N1 に合格している中国人母語話者30名
- ③ 日本語学習歴のない中国人母語話者30名

調査期間

- ①の30名：2017年4月13日～2017年4月14日（広島女学院大学）
- ②の30名：2017年3月2日（山東大学）
- ③の30名：2017年3月3日（山東大学）

被調査者①～③のうち、①と②に対しては、日本語文を用いた。③に対しては、日本語文と対応する中国語文を用いた。質問紙調査の内容は以下の通りである。

日本語文の質問紙調査

*問題1～2の選択肢から最も相応しいもの（最も自然だと思うもの）を一つ選んでください。他の答えがある場合、「Dその他」の下線部に記入してください。問題3は下線部に記入してください。問題4は○を付けてください。

1. (彼が歌った) 歌を聞いて、感動の涙が出てきた。

「感動」の理由は何だと思いますか。

A 歌い方が素晴らしい B 歌詞が悲しい C 彼という人物（彼についての連想など）

D その他 _____

2. 『モナ・リザ』の絵を見て、感動した。

「感動」の理由は何だと思いますか。

A 絵が素晴らしい B 悲しい思い出がある C 作者のこと（作者についての連想など）

D その他 _____

3. あなたが、最近感動したこと（或いはもの、人）は何ですか。

4. 「感動」の対象として自然なものを次の選択肢の中から選び、○をつけて下さい。（複数選

択可)

涙 美味しいケーキ 広島東洋カープ 愛国精神
 笑顔 表情 壮大な計画 功績 貢献精神
 素晴らしいピアノの音 素晴らしい芸術作品
 優秀な人 かわいそうな人 よく頑張った人

ご協力ありがとうございました。

问卷调查

*请在1 - 2题中选择最合适的答案。如有其它答案, 请记录在横线处。第3题请直接写在横线处。第4题在选项上画○。

1. 听了歌曲后 (他唱的), 流下了感动的泪水。

“感动”的理由是什么?

A 唱得好 B 歌词悲伤 C 他相关

D 其它 _____

2. 看了《蒙娜丽莎》的画后, 很感动。

“感动”的理由是什么?

A 画得好 B 想到了悲伤的事 C 作者相关

D 其它 _____

3. 最近让你感动的事 (或人) 是什么?

4. 作为“感动”的对象, 请在框中选择合适的答案, 并画上○。(不限)

眼泪 好吃的蛋糕 广岛东洋棒球 爱国精神
 笑容 表情 宏伟计划 功劳 贡献精神
 出色的钢琴演奏 出色的艺术作品
 优秀的人 可怜的人 努力的人

感谢您的配合。

4. コーパスから収集した用例分析の結果

4.1. 「感動+」「感動的」が修飾する名詞の上位5位

ここでは、「感動」「感動」が修飾する名詞の上位5位を比較する。「感動」「感動」が修飾する普通名詞は、日本語、中国語ともに100種類以上あった。それぞれの上位5位の名詞は、以下の表2と表3の通りであった。

【表2】日本語「感動+」が修飾する名詞

日本語 (414)			
1	こと	60	14.5%
2	心	14	3.4%
2	ドラマ・映画	14	3.4%
4	作品	13	3.1%
5	シーン	10	2.4%
	その他	303	73.2%

【表3】中国語“感動的”が修飾する名詞

中国語 (425)			
1	涙	35	8.2%
2	こと, 事情	31	7.3%
2	人	31	7.3%
4	物語	16	3.8%
5	話	13	3.1%
	その他	299	70.4%

日本語の場合は、「こと」が最も多く、14.5%を占めている。第2位は「心」、「ドラマ・映画」で、3.4%である。一方、中国語の場合、一番多いのは「涙」で、8.2%を占めている。第2位は「こと, 事情」、「人」で、7.3%である。中国語の1位の「涙」と2位の「人」は、いずれも日本語の上位5位までに入っていない。

4.2. 意味分類

4.2.1. 分類カテゴリー

日本語「感動+」と中国語“感動的”が修飾する上位5位の名詞だけから、両語の意味の相違の全体像を把握することは非常に難しい。そこで、次に、国立国語研究所の『分類語彙表』を参考にした上で、以下の六つの意味カテゴリーを設定し、カテゴリー別に、「感動+」「感動的」が修飾する語を分析していく。

- ① 「人間活動」：人間活動の主体・精神・行為。
- ② 「抽象的關係」：事柄, 様相, 時間など。
- ③ 「芸術表現」：音楽, 映画, 作品など。

- ④ 「自然物及び自然現象」：自然，生命など。
- ⑤ 「生産物及び用具」：住居，機械など。
- ⑥ 「その他」：以上の項目に分類できない名詞⁴。

日本語「感動+」が修飾する語414例と中国語“感動的”が修飾する語425例を上記の①～⑥に分類したところ，各カテゴリーに含まれる語の数と割合は表4の通りであった。

【表4】被修飾名詞の分類

	日本語		中国語	
	数	割合	数	割合
1. 人間活動	126	30.4%	256	60.2%
2. 抽象的關係	175	42.3%	61	14.4%
3. 芸術表現	87	21.0%	55	12.9%
4. 自然物及び自然現象	16	3.9%	27	6.4%
5. 生産物及び用具	10	2.4%	6	1.4%
6. その他	0	0%	20	4.7%
合計	414	100.0%	425	100.0%

表4の各項目の日本語と中国語の比率の差について， χ^2 検定を行ったところ，「人間活動」，「抽象的關係」，「芸術表現」のいずれも， $p < 0.01$ で，有意差が見られた。まず，「人間活動」については，日本語の場合30%なのに対し，中国語の場合は60.2%である。このように，中国語は日本語に比べ，「人間活動」にあたる被修飾名詞がよく用いられている。また，中国語では，「人間活動」にあたる被修飾名詞が最も出現率が高い。次に，「抽象的關係」については，日本語の方が出現率が高い。また，日本語では，このグループの名詞が最も出現率が高い。続いて，「芸術表現」については，「抽象的關係」と同様，日本語の方が出現率が高い。以下，日本語と中国語とで有意差の見られた「人間活動」，「抽象的關係」，「芸術表現」を更に詳しく見ていく。

4.2.2. 「人間活動」における「感動+」と“感動的”

4.2.1で見たように，「人間活動」を表す被修飾名詞の割合は，日本語と中国語でそれぞれ約30%，約60%であり，中国語“感動的”は日本語の「感動+」に比べ「人間活動」に対し，よく使用されている。では，それぞれの言語においてどのような「人間活動」に対しよく使用されるのであろうか。「人間活動」を更に「人間活動の主体」，「人間の内面・言葉」，「人間の外観・出来事」，「その他」の四つに分けて調査した。表5はその結果である。

【表5】「人間活動」の下位分類

項目	日本語		中国語	
	件数	割合	件数	割合
1. 人間活動の主体	22	17.5%	57	22.3%
2. 人間の内面・言葉	46	36.5%	58	22.7%
3. 人間の外観・出来事	48	38.1%	141	55.1%
4. その他	10	7.9%	0	0.0%
合計	126	100.0%	256	100.0%

表5の各項目の日本語と中国語の比率の差について、 χ^2 検定を行ったところ、「人間活動の主体」は有意差が認められなかったが、「人間の内面・言葉」と「人間の外観・出来事」は、いずれも $p < 0.01$ で、有意差が認められた。このうち、「人間の外観・出来事」については、日本語、中国語のいずれにおいても出現率が最も高い。ただし、中国語の方は、55.1%と半数以上を占めているのに対し、日本語の方は38.1%で半数以下であった。次に具体例を見てみる。次の(1)～(4)は被修飾名詞が「人間の外観・出来事」に分類される具体例である。

- (1) 歌舞伎における近松ものは、形骸に終わっているが、彼の近松はいきいきと現代によみがえり、老いも若きも感動の拍手でこたえた。(LBt7_00016)
- (2) ベトナムではいくつかの感動の再会があった。(PB42_00116)
- (3) 从农业合作化到改革开放，在各个历史时期，他都有着令人感动的事迹。(1996年人民日报2月份)
- (4) 同在一九八九年入党；在生与死的考验面前，同样作出了令人感动的壮举，因而新近同被人们视为英雄而广为传颂。(1994年人民日报第二季度)

(1)と(2)の「感動+」の被修飾名詞は「拍手」と「再会」であり、(3)と(4)の“感動的”の被修飾名詞は“事迹”と“壮举”である。(1)～(4)の被修飾名詞はいずれも人間の出来事に属している。しかし、「拍手」と「再会」は日常生活の中で起こる一般的な出来事であるのに対して、「事迹」と“壮举”は人々から特別な評価を受ける奉仕的な行為を表している。

(3)は日本語に翻訳すると、「農業合作化から改革开放までの歴史的ないずれの時期においても、彼は人々を感動させる功績を残している」となる。また(4)は、「生と死の試練を前にして、同様に、人々を感動させる偉大な行為をなした」となる。つまり、“事迹”は「功績」を指し、“壮举”は「偉大な行為」を指している。

“感動”の被修飾名詞の中には、“事迹”が5例あった。それ以外にも、人々から特別な評価

を受けるものとして、「力量」が6例あった。このような人々から特別な評価を受ける奉仕的な行為を表す被修飾語は、中国語では「人間の外観・出来事」の7.8%を占めていた。一方、日本語では、このような例は一つもなかった。

以上より、日本語の「感動」と中国語の“感动”はともに「人間活動」に対して使用されるものの、共起しやすい名詞がやや異なると考えられる。なお、2節で紹介したように、張は「感動」は“感动”の意味以外に、「敬服」の意味があると指摘しているが、今回の調査で、中国語の“感动”にも「敬服」の意味を表す用例が存在することが明らかとなった。また、むしろ中国語の“感动”の方が、日本語の「感動」に比べ、偉大さや敬服の気持ちといった、人々から特別な評価を受ける行為を表す名詞と結び付きやすい可能性が示唆された。

4.2.3. 「抽象的關係」における「感動+」と“感动的”

「抽象的關係」は「事柄」,「存在」,「様相」,「類」,「時間」,「空間」といった下位項目に分けられる。これらのうち、次の(5)(6)のように時間を表すものが両方とも比較的多く見られた。それぞれ25例, 16例で、「抽象的關係」の14.3%, 26.2%を占めている。

- (5) 生涯忘れることのできない、感動の一瞬です。(OY14_35701 3370)
 (6) カスター罗在讲话中说, 这是一个令人感动的时刻, 人民感谢运动员为祖国带来了荣誉。
 (新华社2001年3月份新闻报道)

(5)の被修飾名詞は「一瞬」であり、(6)の被修飾名詞は“时刻”である。いずれも短い時間を表す名詞である。その短い時間の中に、心が動くことを表す時に用いられる点で、日本語の「感動+」と中国語の“感动的”の使い方はほぼ同じであることが確認された。

4.2.4. 「芸術表現」における「感動+」と“感动的”

「芸術表現」には、芸術作品・芸術シーンに対して心が動く時に「感動」「感动」が使われていた。しかし、文脈から見ると、それぞれ感動の場面及び原因が違うと考えられる。この点に関して、用例を用いて具体的に述べる。

- (7) センス・オブ・ワンダーと人間ドラマが見事に融合した感動の大作である。
 (OY05_06110 4440)
 (8) 特に感動する作品は「ロレンツォのオイル」です。(PM32_00049 1740)
 (9) 你从伤心的歌曲或者任何使你深受感动的绘画中, 都会得到同样的感受。(嘉莉妹妹)

- (10) **战友不时扶一扶蹦跳欲倒的罐头盒。这是世界上最简陋，也是最令人感动的“爵士鼓”表演！**（2000年人民日报）

(7)の感動の対象は「大作」であるが、感動の理由はセンス・オブ・ワンダーと人間ドラマの見事な融合にある。つまり、センス・オブ・ワンダーと人間ドラマの見事な融合が「感動」という気持ちを引き起こしたと考えられる。

(9)は日本語に翻訳すると、「あなたは悲しい歌もしくはなぜか感動させられる絵の中から、同じような印象が得られるはずだ」となる。感動の対象は絵で、どういう絵かは明らかにされていないが、文脈からある程度推測できる。絵と悲しい歌に対して、「得到同様の感受」「同様な印象を得る」とあることから、この絵が歌と同様悲しい内容の絵ではないか、という推測が成り立つ。

(10)は日本語に翻訳すると、「缶詰の箱を倒れないように、战士们は常に手で支えている。これは世界で一番粗末な、それでいて、最も感動させるジャズ演出だ」である。つまり、楽器ではなく、缶詰の箱を利用してジャズをしたということである。「粗末」であるために、人々を感動させるのではないか。筆者の内省でもあるが、中国語“**感动**”は同情の気持ちを抱かせるややマイナスな場面に使用しやすいと考えられる。「芸術表現」の中で、ややマイナスなニュアンスを表す“**故事**”の用例は16例で、29.0%を占めていた。例えば、“叙说着这个让人怜惜，又使人感动的真实故事”である。“**故事**”の修飾語は「感動」以外に、“**怜惜**”もある。“**怜惜**”は「情けをかけていたわる」の意味で、「同情」に近い。以上の分析より、中国人は「同情」の気持ちを生じさせるようなものに対し、“**感动**”を用いやすいのではないかという推測が成り立つ。この点については、5節で見える意識調査の結果とあわせ再度検討する。

4.3. 本節のまとめ

本節ではコーパスから収集した「感動+」「**感动的**」の用例を被修飾名詞の意味カテゴリーごとに分析してきた。その結果、日本語の「感動+」の被修飾名詞は「抽象的關係」に分類されるものが最も多いのに対し、中国語の“**感动的**”の被修飾名詞は「人間活動」に分類されるものが最も多いことが明らかとなった。

また、中国語の“**感动的**”の被修飾名詞は半分以上が「人間活動」であるのに対し、日本語の「感動+」の被修飾名詞は特定のカテゴリーには集中していないものの、「抽象的關係」,「人間活動」,「芸術表現」に比較的よく使用されることが明らかになった。

次に、日本語と中国語で有意差の見られた「人間活動」「抽象的關係」「芸術表現」について更に詳しく見ていった。その結果、「人間活動」については、更に「人間活動の主体」,「人間

の内面・言葉, 「人間の外観・出来事」「その他」に下位分類したところ, 中国語の“感動的”の被修飾名詞の割合は「人間の外観・出来事」が55.1%と半分以上を占めていた。一方, 日本語の「感動+」の被修飾名詞についても最も多いのは「人間の外観・出来事」であったが, 出現率は38.1%にとどまっていた。また, 中国語の“感動的”の被修飾名詞には, “事迹”“壮举”“力量”といった人々から特別な評価を受ける奉仕的な行為を表す名詞がある程度含まれていたのに対し, 日本語にはこのような名詞は含まれていなかった。次に, 「抽象的關係」については, 日本語の「感動+」と中国語の“感動的”の意味用法はほぼ同じであることが明らかになった。

最後に, 「芸術表現」については, 日本語の場合は21.0%を占めているに対し, 中国語の場合は12.9%にとどまっていた。収集した用例から, 中国語の“感动”はややマイナスな場面で, 「同情」の意味をこめて使うことが多いことが示唆された。この点については, 次の5節で見る質問紙調査結果を見ながら再度検討する。

5. 質問紙調査の結果

先の4節では, 中国語の“感动”はややマイナスのことに対する同情から生まれた感情に用いられやすいと述べた。本節では「感動」と“感动”の相違と使用実態について, 使用者の意識に着目して行った質問紙調査の結果に基づき, 分析していく。表6と表7は3.2項に示した方法で行った調査の結果である。このうち, 「日本語母語」は「日本語母語話者」を指し, 「中国語母語 a」は「中国人日本語学習者」を指し, 「中国語母語 b」は「日本語学習歴のない中国人母語話者」を指している。

次の表6, 表7は今回行った質問紙調査の中の選択問題の統計結果である。

第1問の各項目の「①日本語母語と中国語母語 a」, 「②日本語母語と中国語母語 b」, 「③中国語母語 a と中国語母語 b」の各比率の差について, χ^2 検定を行ったところ, ①と②については, 選択項目 A と C において, $p < 0.01$ で, 有意差が認められた。また, 選択項目 B も $0.01 < p < 0.05$ で, 有意差が認められた。第1問は, 「(彼が歌った) 歌を聞いて, 感動の涙が出てきた」の感動の理由を選択肢の中から選ぶものである。歌を聞いたあとの「感動」について, 日本人と中国人の間で大きな差が見られたが, 中国語母語 a と中国語母語 b の間では有意な差は見られなかった。日本人の場合は, 「歌い方が素晴らしい」を理由に挙げる人の比率が高い。それに対して, 中国人は「歌い方」より「歌詞が悲しい」, 「彼という人物」の方を「感動」の理由としてより多く挙げている。また, 中でも「ややマイナスなニュアンス」を表す「歌詞が悲しい」の選択率が最も高かった。

【表 6】 第 1 問の統計結果

選択項目	日本語母語 (30)	中国語母語 a (30)	中国語母語 b (30)
A	18	2	1
B	10	18	15
C	1	9	14
D	1	1	0

【表 7】 第 2 問の統計結果

選択項目	日本語母語 (30)	中国語母語 a (30)	中国語母語 b (30)
A	27	17	15
B	0	5	4
C	2	8	6
D	1	0	5

第 2 問の各項目の「①日本語母語と中国語母語 a」, 「②日本語母語と中国語母語 b」, 「③中国語母語 a と中国語母語 b」の各比率の差について、 χ^2 検定を行ったところ、①と②については、選択項目 A において、いずれも $p < 0.01$ で、有意差が認められた。また、選択項目 C も $0.01 < p < 0.05$ で、有意差が認められた。第 2 問は、「『モナ・リザ』の絵を見て、感動した」の感動の理由を選択肢の中から選ぶものである。日本人と中国人のいずれも A の「絵が素晴らしい (画得好)」を選択した人の割合が最も高い。ただし、A 以外の選択肢を選んだ日本語母語話者は 3 人しかいなかったのに対し、中国語母語 a と中国語母語 b は総数 30 人のうち約半分ほどいる⁵。

以上のことから、日本人母語話者は歌を歌う技術と絵を描く技術の素晴らしさについて、「感動」をよく使用する傾向にあり、中国人の場合は、歌の内容や絵の内容や作者のことなどに、「感動」を使用する傾向にあることが明らかとなった。

第 3 問は、「あなたが、最近感動したこと (或いはもの、人) は何ですか」という問に答えるものである。三つのグループはいずれも「映画、ドラマ」関係の答えが最も多い。日本語母語話者の中には、「満開の桜並木を見て、感動した」や「昨日雲一つもなかった。感動した」というような答えも存在した。しかし、中国人の中にはこのような天気や風景を表す答えが存在しなかった。

第 4 問は複数選択可能な項目であり、日本語母語話者が選択した項目は計 95 個で、中国語母語 a が選択した項目は計 126 個で、中国語母語 b が選択した項目は計 127 個であった。一人あた

りの平均数はそれぞれ3.2個, 4.2個, 4.2個である。具体的な結果は表8の通りである。

表8より, 日中各項目で差が10以上であるのは「広島東洋カープ」, 「愛国精神」, 「貢献精神」である。日本語母語話者の中で11人が「広島東洋カープ」を選択しているが, 中国語母語 a, 中国語母語 b のいずれもこれを選択していない。この差は, 広島の地域性によると考えられる。また, 「愛国精神」「貢献精神」については, 中国人は日本人より「感動」の対象になりやすい。なお, 「かわいそうな人」に対し, 「同情」の気持ちがより普通であるが, 11人の中国人母語話者が「感動」の対象として認識した。

以上, 本節では, 意識調査の結果から「感動」「感动」の使用実態を考察した。第1問-第3問から, 日本人は芸術に対する「感動」の理由として「素晴らしい技術」を挙げるのに対し, 中国人は内容から連想されること, 特に人に対して感動することが明らかとなった。第4問からは, 中国人が「愛国精神」「貢献精神」といった「人々から特別な評価を受ける奉仕的な事柄」に“感动”を用いやすいことが確認された。

【表8】「感動」の対象として自然なものの順位

項 目	①日本語母語	②中国語母語 a	③中国語母語 b	①と② の差	①と③ の差	②と③ の差
涙	19	15	17	4	2	2
よく頑張った人	17	21	19	4	2	2
素晴らしい芸術作品	12	11	8	1	4	3
素晴らしいピアノの音	11	13	9	2	2	4
広島東洋カープ	11	0	0	11	11	0
笑顔	4	12	10	8	6	2
美味しいケーキ	4	9	5	5	1	4
表情	4	4	4	0	0	0
功績	4	2	5	2	1	3
愛国精神	3	16	19	13	16	3
貢献精神	3	12	15	9	12	3
かわいそうな人	3	8	11	5	8	3
優秀な人	0	3	5	3	5	2

6. お わ り に

本稿では、日中同形語「感動」「感动」の対象から、「感動」「感动」の語彙的意味の相違を考察してきた。その結果、中国語の“感动”は「人間活動」に対し頻繁に使用されるが、日本語「感動」は特定の項目に頻繁に使用するということがないことが明らかとなった。さらに、質問紙調査を通して、“感动”は人々から特別な評価を受ける奉仕的な事柄に用いやすいこと、ならびに、ややマイナスな場面に用いやすいことが確認された。このような点は、異文化接触場面において注意を払う必要があると考えられる。しかし、今回の調査では、被験者の年齢は20歳で、若者の認識しか表せなかった。今後は調査人数と質問紙調査の問題を増やし、年齢別で調査したい。また、今回収集した用例の中には1節で紹介した『高校生が感動した微分積分・積分の授業』のような用例が出てこなかった。これは特別な意味用法だろうか。この点については今後の課題にしたい。

注

- 1 山本俊郎 (2015) 『高校生が感動した微分・積分の授業』 PHP 研究所
- 2 張が用いた辞書は以下の通りである。《古代汉语词典》, 《现代汉语大词典》, 《日中辞典》, 『新明解国語辞典』。
- 3 張が挙げた例は以下である。「あの中国人は2週間前に日本に来た。その時は、一言も話せなかった。そして今日(二週間経った)彼を見て驚いた。友人のアメリカ人より日本語を上手に話している。中国人はすごいよね。もう、すごく感動した。」
- 4 例：感動的“啊”。「あ」という感嘆詞を指している。
- 5 第2問の設定には考え不足のところがある。「モナ・リザ」の絵は中国語の名前は「モナ・リザの微笑み」である。したがって、中国人にとってこの絵はプラスな気持ちを生じさせる絵である。その結果、中国語母語話者 a と中国語母語話者 b が相対的選択肢 A を選択する人が多かったと推測される。

参 考 文 献

- 大河内康憲 (1997) 「日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版 pp. 411~447
- 何龍 (2016) 「日中同形語のコロケーション——「感染」を例として」『愛知淑徳大学大学院論文集』第8号 pp. 49~63
- 顧令義 (2014) 「第12章日中同形語」『日本語ライブラリー 中国語と日本語』朝倉書店 pp. 95~102
- 張瑜璇 (2015) 《日汉同形词的对比分析—以汉语“感动”与日语「感動」为例》《开封教育学院学报》第35卷第11期 pp. 60~61
- 庞佳 (2015) 《中日同形词“感动”与“感動”的对比探析》《江苏外语教学研究》pp. 29~33